



編集・発行 大町市老人クラブ連合会 長野県大町市大町 3887 番地 大町市役所内 電話 (0261)22-0420 内線 474

## 地域の仲間づくりの和が 仲間づくりの絆に

大町市老連副会長  
鷺澤 徳司 (栄町会長)



○はじめに  
市老連会員の  
皆様こんにちは。  
三寒四温の時  
節、日足も伸び  
てうらかな春の到来が待たれる今日  
この頃です。

この度、市老連内川会長の補佐役として副会長の重責を担わしていただいております鷺澤徳司と申します。微力ながら、老連の発展のために尽くして参りたく存じます。よろしくお願いいたします。

### ○活動の契機と方々の支援

私たちは高齢者と呼ばれる年代になり、この少子高齢化の問題はすでに相当以前より懸念されている事実であり、これらの事実を、行政を預かる方々の並々ならないご努力により、高齢者福祉に關する諸課題の解決に向けて、ご助力・ご支援をいただけることは大変ありがたいうことと存じます。

私の地区(栄町)においても社会福祉協議会のご指導を受け、平成十一年に、地域福祉ネットワークの組織をスタートさせ、多くの地域の皆さんの後押し

しに支えられて、それらしい十六年間歩んできました。

### ○活動の理念

それでは、その経緯と活動の実態とその概要をお伝えしたいと思います。

私どもの地区は、市営住宅、七十六戸、持ち家を合わせて百四十四戸の自治会です。高齢者の一人住まいの方々、支援を受けている方々も多い地区と言えます。

このような環境の中、地域内での支え合い、助け合い活動の大切さ、必要性を強く感じ、老人クラブの仲間が中核となつて地域包括支援センター、社会福祉協議会と協調して、若い世代の方々にも働きかけて研修が互いに自分の事とらえて協力して活動を進める中で絆が深められることを学ぶことができたように思います。

### ○日常活動の「IT」

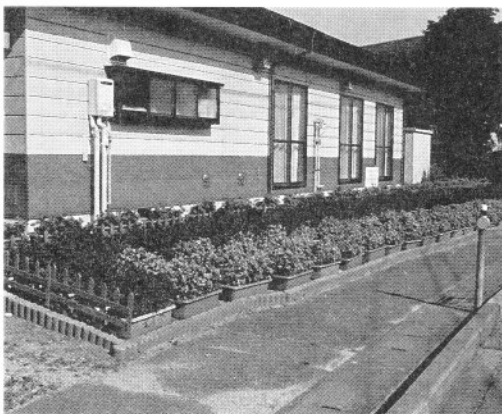
民生児童委員さんと連絡を取り合いながら、「児童生徒の見守り・一人暮らしの方々の安否確認・脳トレ健康体操・健康相談会」、その他「キラリ輝く協働のまちづくり」事業への積極的参加等々です。特に花づくりにおいては、保育園

児との交流で花植えなどの活動を共にしています。お陰様で本年度は「協働のまち花づくり」においては満点に近い評価をいただきました。

北小学校児童の登下校時の見守り活動も今春で十年を歩んできました。当時、一年生だった児童たちも今では高校生に成長され、朝の挨拶では、逆に私たちが励まされ、温かい絆に癒されています。

### ○まとめにかえて

支え合う町づくりは老若男女が互いに関心を強く持つこと。地域で役割を持ち、そして弱者への生活支援活動がごく自然のうちにできること。「支え合いのまちづくりおまち」がいよいよ本格化していくことを希求しています。各単位クラブのご健勝とご発展を祈ります。



一緒に花植えを楽しむ

# 二十七年 度 市老連幹部研修会

編集委員長 西沢 幸治

本年度の幹部研修会は一月二十一日、二十二日に立山プリンスホテルで開催された。例年は大雪で駐車場確保が大変だったのに、今年は一尺程度の積雪でありがたいことであつたが、寒だといふのに、こんな少雪で、夏の灌がい用水が間に合うのかと心配される二日間でした。

研修に先立ち、内川会長の挨拶の中から抜粋で一部を紹介したい。

「単位クラブでは幹部の努力にもかかわらず、会員の減少が続いている。各单位クラブでは毎年二、四名の新会員確保で全老連の掲げる百万人増強運動は達せられるのだが・・

社会構造の変化とともに、人間関係が希薄になりつつある今日こそ高齢者は自己の損得勘定から脱皮して相互扶助と互いの福祉向上に向けて絆を深める努力が重ねられるべきである。会員諸兄弟の努力にもかかわらず会員が減り、休会クラブが増える中、一大決意をもって以下を提案したい。

○新会員加入一名につき、千円を目途に各单位クラブに交付する。

○休会・解散している近隣クラブ

旧会員に働きかけて当該クラブに勧誘できた場合も同様に交付する。

○休会・解散しているクラブが復活した場合、一件につき当該クラブに三万円を交付する。」等々。

## 研修Ⅰ 「地域づくりにおける老人クラブの役割」

松本大学総合経営学部

佐藤 哲郎 准教授

先生は幼少時から祖父に連れられてよく老人方の話し合いの場に顔を出して以来、老人福祉関係の学習に関心を持たれ、以後、福祉大学、地域社協、欧米の福祉行政の実情を勉強されて今日のお立場に立っておられる由。

改正介護保険に関わって益々住民による地域活動の期待が深まっている。日常生活の中で、ちょっとした活動を自分の事とらえて育まれる気持ちの変化こそ大事。それらを活動の場としてみんなで継続する。そうした過程を通して、福祉関係者、当事者との話し合いにつながり、支え合いにつながっていく。

老人クラブは「有志の会員組織」

であり、情報や活動が共有できる強みを持っている。さらに、高齢者集団ゆえに、様々な人生経験を通して多様な特技を有するとともに、地域の文化、先人たちの知恵を有している。それゆえ、何としてもこれらの宝を埋もれさせないようにしてはならない。

具体的には高齢者ができる住民福祉活動には次のような活動が上げられよう。

- ①集める：使用済み切手・ベルマーク・書き損じハガキなど。
- ②ふれ合う：福祉施設、一人暮らし高齢者、子育てサロンなどを訪問したり、招待し、高齢者の体験談を聞く、認知症の方、生きづらさを感じている方など。
- ③つたえる：伝統工芸、伝統芸能地域史を作る、マップを作るなど。
- ④つくる：小ものづくり、菓子や料理づくり、点字の翻訳、花壇や花栽培など。
- ⑤おしえる：学習指導、あそび指導など。

このように高齢者には宝の山が詰まっている。

こうした財産をクラブの方々ができる時に、出来る範囲で、楽しみながら進めたい。「継続は力なり」

## 研修Ⅱ 「東京の方言」

市老連会長 内川三郎

硬い講義の合間を縫って、会長は肩の力を抜くべく表題のような耳慣れない話をされた。以下はその概要。  
○「お国ことば」や方言は古くから言語文化として大切にされているが、国が定める口語文法に基づく全国共通のいわゆる標準語が制定され、今日新聞、テレビをはじめ、教科書辞書等々に使われている。

東京は国中から方言を話す人々の集まる都市だが、それゆえ標準語の徹底が強くはかられた町である。終戦前後、疎開の友達が標準語を話す様子にあこがれたものである。

ところが、近年テレビなどに登場するアナウンサーをはじめ、若者の言葉遣いに脱標準語が横行してきている。これを東京の方言などという人がいるという事です。

例を挙げてみきりがなが「食べる」「見れる」などのら抜き言葉は序の口で文法を無視した「すごいおいしい」「全然面白い」……このような言葉を女子アナたちが何の違和感も感じないように話すのを聞いて一人心配している。これらは一種の流行語として承知して使っているのか。それならいいのだが。

研修Ⅲ 意見発表  
『歌と共に』

西原南山会女性部長 佐藤貞子

子供のころから体が弱く、肺炎に幾度も罹患したが、歌う事だけは私の唯一の楽しみでした。

結婚後は生活に追われ、子育てに追われ、引越しや家族の病氣と闘う中、主人の鬱病をキツカケに、病気の治療のために、歌を歌うグループに入れていただきました。

お陰様で歌を歌う治療の成果が出て、主人に生気が戻り、病も快方に向かつてまいりました。

そのうちに、自分たちだけが歌って楽しんでいただけでいいものかと思ひ、歌のボランティア「ひばりの会」を仲間七人と一緒に立ち上げ、大町市社協に登録しました。

その後まもなく、社協からボランティア要請の連絡をいただきました。そして今日、市内の六施設から呼んでいただいております。

施設では、主に入所されている皆さんのよく知っている懐メロと一緒に歌わせていただいたり、リクエスト曲についての質問などにお応えしたりしています。

歌の会の終了時には、一人一人と握手を交わしています。握手によってお互いに幸福ホルモ

ンが出てくるのだそうです。「長生きして」「元気でまた逢いましょう」と声をかけると、涙を流して「ありがとうございます」と喜んできてくださいます。

夫婦の衣装には、ダンスに眠っている帯や着物をドレスに、主人のチョッキやズボンを仕立て直しをしたりして皆様に喜んでいただいています。

南山会では、月に二回のカラオケ会を、年に一回の一泊旅行では毎回二十名前後が参加し、これまたカラオケを楽しんでいます。

もう十九回を迎えている老連の「カラオケ発表会」では、主人が司会をし、私がオペレーターをさせていただいております。私のできることで、皆様のお役にたてていられることは嬉しい限りです。



歌を聞く施設の方々

悲惨な交通事故死の発生

新年早々の正月四日午後五時四十五分頃、南原交差点付近において、八十八歳の単位クラブ会員が交通事故死しました。横断歩道でない所を西から東に横断しようとしていたといひます。心よりお悔やみ申し上げます。直ちに事故現地診断、事故防止検討会が開かれ、特に歩行者のマンナーの低下が指摘され、啓発の重要性が求められました。度々学習しているように、交通事故死の六割が高齢者であり、しかも歩行中の事故が最も多いのです。

通い慣れた道路でこそしっかり安全確認が必要です。当然の事ですが「ずく」を出して横断歩道を渡るべきです。特に、夕暮れ時(薄暮)の時間帯が最も危険時間帯です。夜間の外出はなるべく避けるようにし、外出の際は夜間反射材着用を遵守していただきたいです。今回の事故に際しても、反射材の着用があれば一命を取り留められたのではないのでしょうか。会員各位にはすでに反射たすきを全会員に配布させていただいておりますので有効にご使用ください。お持ちでない方は単位クラブでご相談いただきたいと思います。

特殊詐欺防止に今一度注意を

『あまたその話か』と思われ誠に恐縮ですが、被害は拡大するばかり。市内でも六件、五百五十万円に上る被害が出ているのです。

このような事件の被害者の六割強が女性であり、その九割近くは高齢者ということです。「自分は騙されない」と観念的に感じている方の多くが、その被害者になっているのです。身内に緊急事態が発生したと聞くと、冷静な判断ができなくなってしまうのが善良な市民なのです。それを逆手に取られてはたまりません。家族に相談と言ってもそれができない方もいるのです。

「何か変だな」と感じたら、まず老連の仲間に相談してください。きつとよい方策を見出すことが出来ましょう。そんな時は単位クラブの友達が一番頼りになるはずですよ。

お詫びと訂正

前号(九十記念号)において二か所に間違いがありましたので、お詫びして訂正させていただきます。

○二頁一段目 下一百寿会を↓須沼長生会に訂正

○八ページ マレット成績↓青木亮佐(神楽町)を(泉)に訂正



[4月] 正副会長交代による挨拶

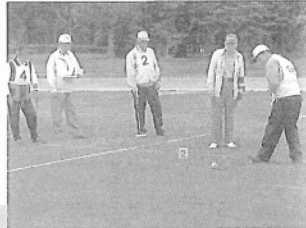
# 友愛 健康 奉仕 市老連この一年



[5月] 第56回大町市老人クラブ大会  
感謝状(1)、功労クラブ(2クラブ)、功労者(7名)、介護善行(2)  
金婚(25組)、米寿(59名)



[4月] 春の研修旅行(善光寺御開帳)



[6月・9月] ゲートボール大会



[4月~10月] ノルディックウォーキング



[10月] マレットゴルフ大会



[9月] 社会奉仕活動



[12月] 市役所に門松寄贈



[12月] 福祉施設等へ寄付金贈呈



[1月から3月] シニア水中運動教室